

2021年3月期
決算説明会

2021年4月28日
栄研化学株式会社
(証券コード:4549)

■ 目次

1 2021年3月期 トピックス

2 2021年3月期 決算概要

3 2022年3月期 重点施策・業績予想



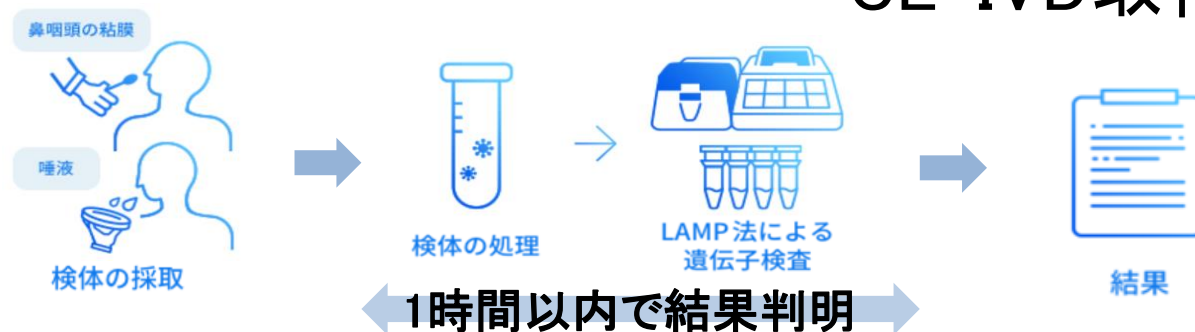
トピックス

新型コロナウイルス検出試薬

2020年 4月 発売

2020年 9月 月産50万テスト分安定的供給体制整備

2020年10月 海外展開開始 — インドへ出荷
— CE-IVD取得



Loopamp 新型コロナウイルス2019
(SARS-CoV-2) 検出試薬キット



リアルタイム濁度測定装置
LoopampEXIA

LAMP法を用いた検査試薬の安定供給およびグローバル展開により
新型コロナウイルス感染症対策への貢献に努めております

■トピックス

主な新製品

- ハンモックタイプの採便シート『べんとりくん』（2020年9月）
- 『OC-カルプロテクチン‘栄研’』（2020年10月）
- 『Loopamp B型インフルエンザウイルス検出試薬キット』（2020年12月）
- 『OC-Fca Reagent』（CE）（2021年1月） ※海外向けカルプロテクチン試薬
- 尿自動分析装置『US-2300』（2021年2月）
- 便潜血測定装置『OCセンサーCeres』（2021年2月）
- 『Simprova 抗酸菌症パネル MTB,MAI』（2021年3月）
- 『Simprova 呼吸器ウイルスパネルSARS-CoV-2, FluA, FluB』（2021年3月）



US-2300



OCセンサーCeres

■トピックス

- アメリカUSPSTF 大腸がんスクリーニングガイドラインにおいて開始年齢50歳から45歳への引き下げを推奨
- イングランド大腸がん国家スクリーニング開始年齢を60歳から50歳に引き下げ（2021年度～）
- オーストラリア大腸がん国家スクリーニング契約更新



2021年3月期決算概要

■ 連結業績

	2020年3月期		2021年3月期		前期比 増減率	対予算※ 達成率
	実績	構成比	実績	構成比		
売上高	36,585	100.0%	38,667	100.0%	105.7%	104.2%
うち海外向け売上高	7,040	19.2%	6,895	17.8%	97.9%	99.9%
営業利益	4,622	12.6%	6,612	17.1%	143.0%	119.4%
経常利益	4,723	12.9%	6,808	17.6%	144.1%	120.1%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	3,538	9.7%	5,044	13.0%	142.5%	117.0%

※修正後予算(2021年1月27日に業績予想を修正しております)

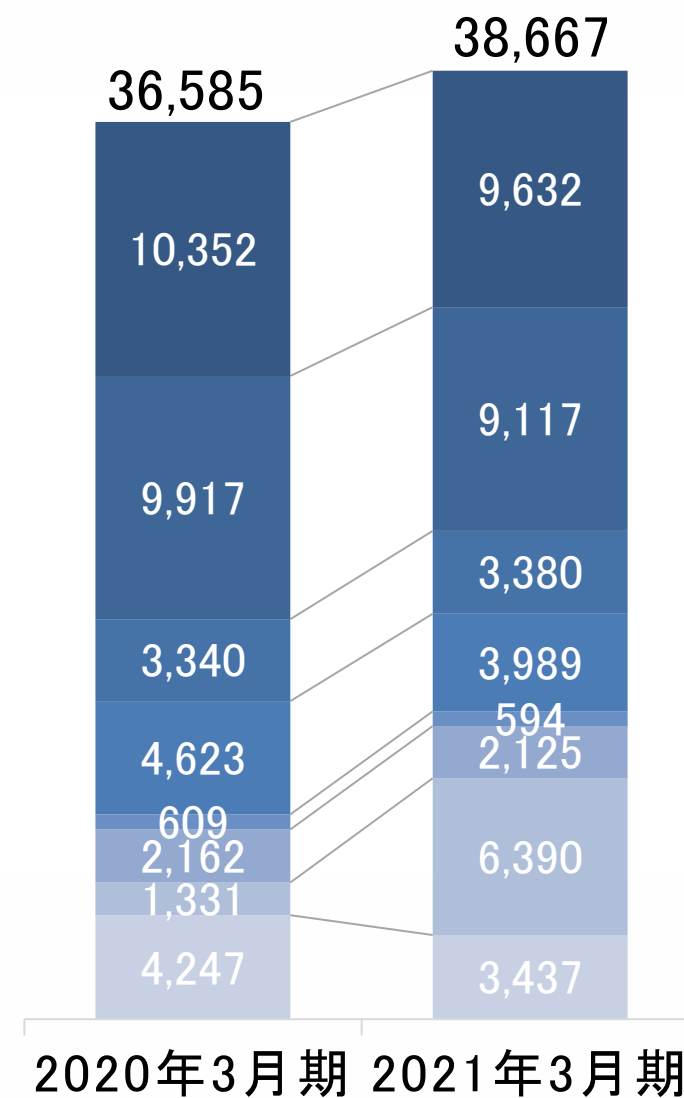
- 売上高: 新型コロナウイルス検出試薬及び遺伝子検査装置が大幅に伸び増収
検診市場は例年の水準には至らぬものの国内、海外ともにほぼ回復
- 利益面: 新型コロナウイルス検出試薬を中心に利益が大幅に増加



■セグメント別売上高

➤ 新型コロナウイルス感染症による影響はセグメント毎に違いあり

	(百万円)		
	2020年3月期	2021年3月期	前期比
便潜血検査用試薬	10,352	9,632	93.0%
免疫血清検査用試薬 (便潜血検査用試薬除く)	9,917	9,117	91.9%
尿検査用試薬	3,340	3,380	101.2%
微生物検査用試薬	4,623	3,989	86.3%
生化学的検査用試薬	609	594	97.5%
器具・食品環境関連培地	2,162	2,125	98.3%
遺伝子関連(装置含む)	1,331	6,390	479.9%
医療機器関連(遺伝子以外)・その他	4,247	3,437	80.9%
合計	36,585	38,667	105.7%



■セグメント別売上高 — 遺伝子関連(装置含む)

➤ 新型コロナウイルス検出試薬関連:

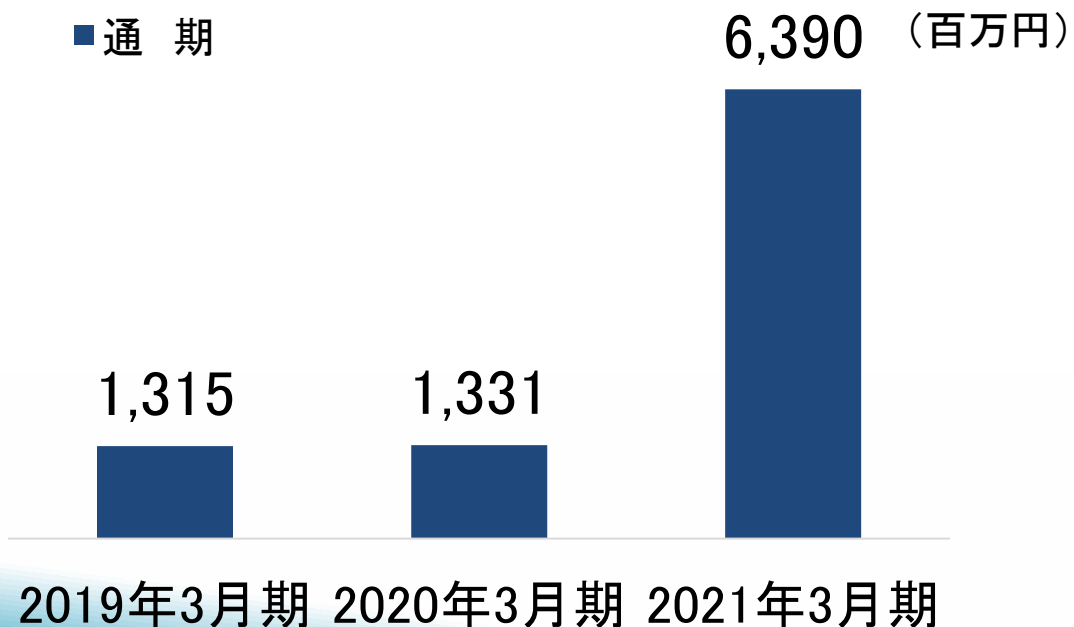
○新型コロナウイルス検出試薬および遺伝子検査装置の売上が大幅に伸長

試薬累計導入施設数 約800施設

○海外展開 インド、中央アジア、欧州

➤ TB-LAMP: 結核高負担国におけるガイドライン収載及びグローバルファンド採択

➤ ライセンス: 特許料収入: 1,285百万円 (前期実績 : 556百万円)



Loopamp新型コロナウイルス2019 (SARS-CoV-2)検出試薬キット



リアルタイム濁度測定装置 LoopampEXIA

当社独自技術LAMP法を用いた、医療、食品、環境など幅広い分野に展開する遺伝子検査関連製品
TB-LAMP(結核検査)は2016年にWHOの推奨を取得し、途上国向けに展開中

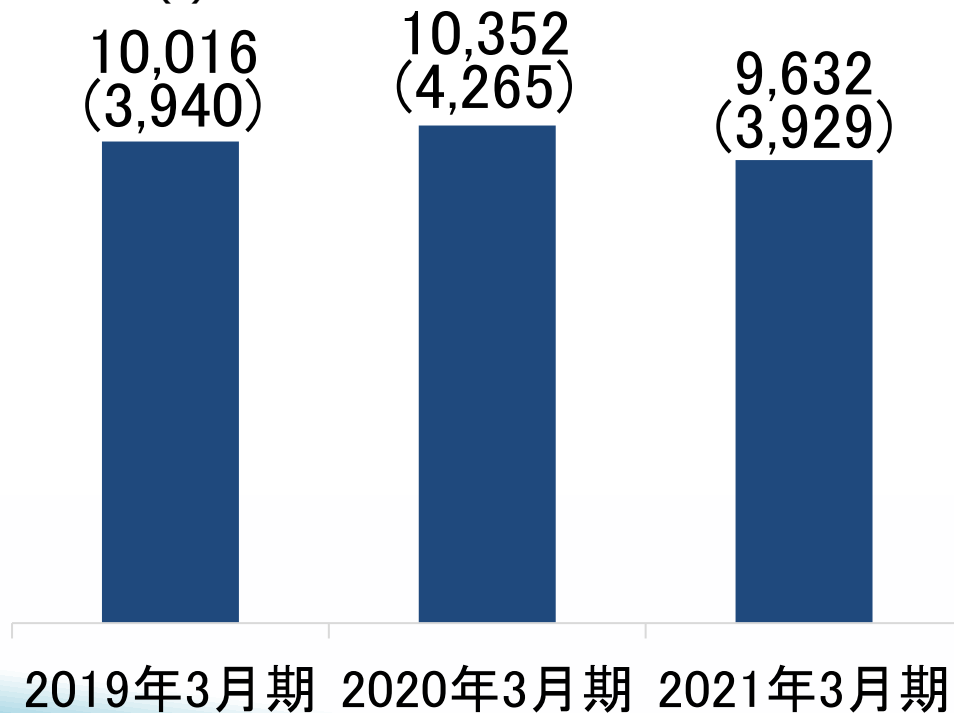
■セグメント別売上高 – 便潜血検査用試薬・尿検査用試薬



- 便潜血検査用試薬は上期までの検診中断によるマイナス分をカバーしきれず売上減少
- 尿検査用試薬はシスメックス(株)向けの販売増が全体の減少をカバーし増収

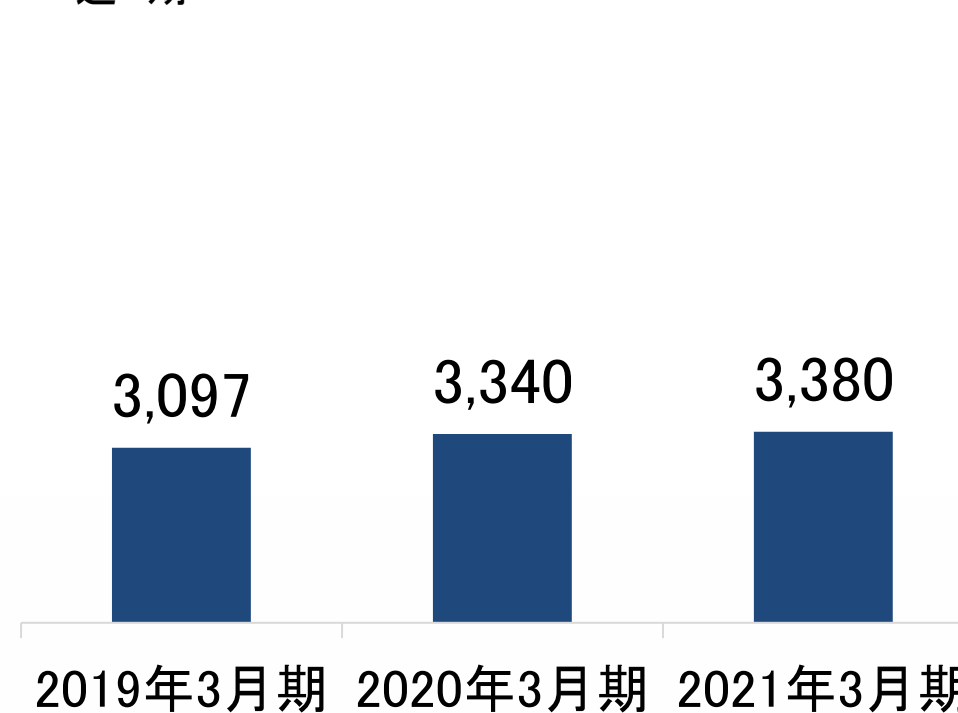
便潜血検査用試薬

■通期 ()内:海外売上高 (百万円)



尿検査用試薬

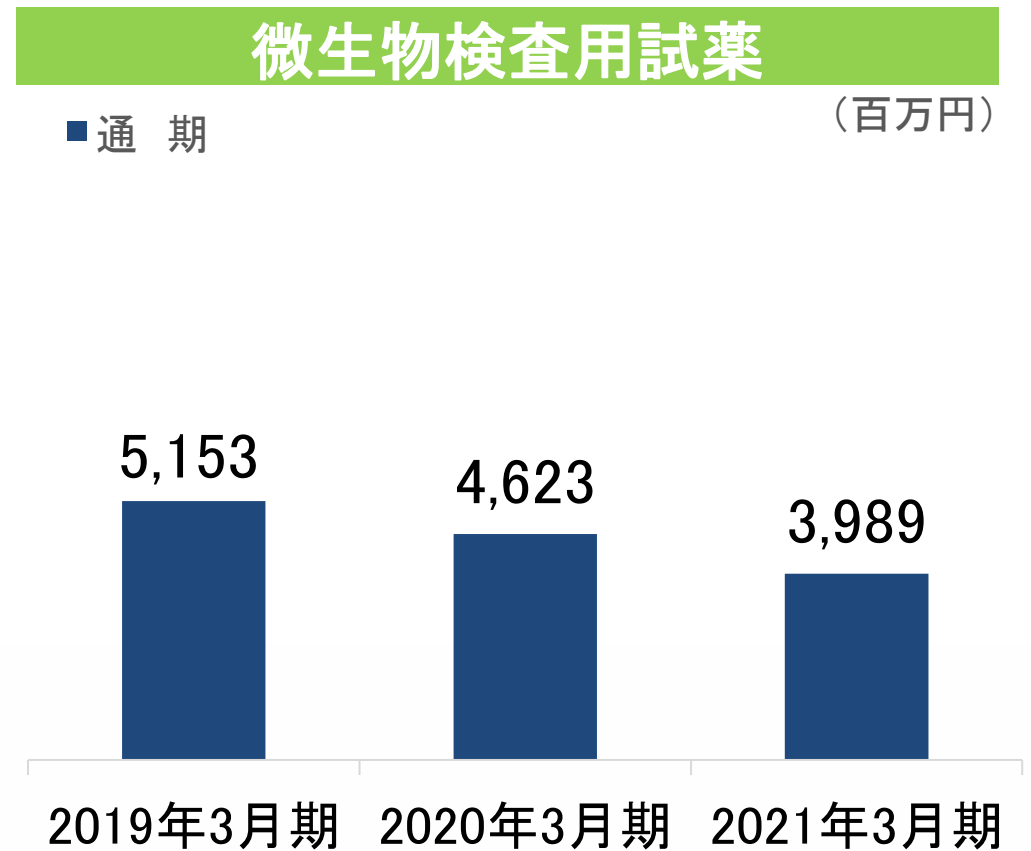
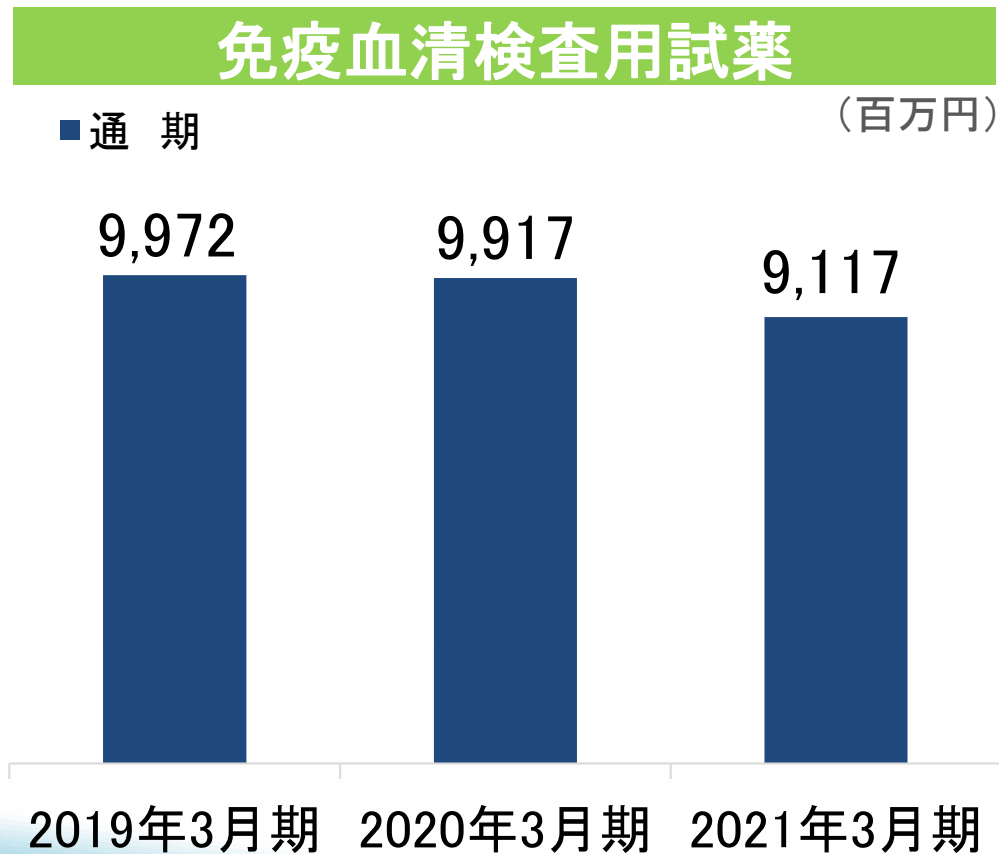
■通期 (百万円)



■ セグメント別売上高－免疫血清検査用試薬・微生物検査用試薬



➤ 外来患者数減少および各種検診中断の影響により売上減少



■ 海外向け売上高

(百万円)

【便潜血検査用試薬】

各国における検診プログラムが再開され全体として回復傾向にあるものの通期としては売上減少

欧米でのCOVID-19禍における検診スキーム変更によるFIT需要増

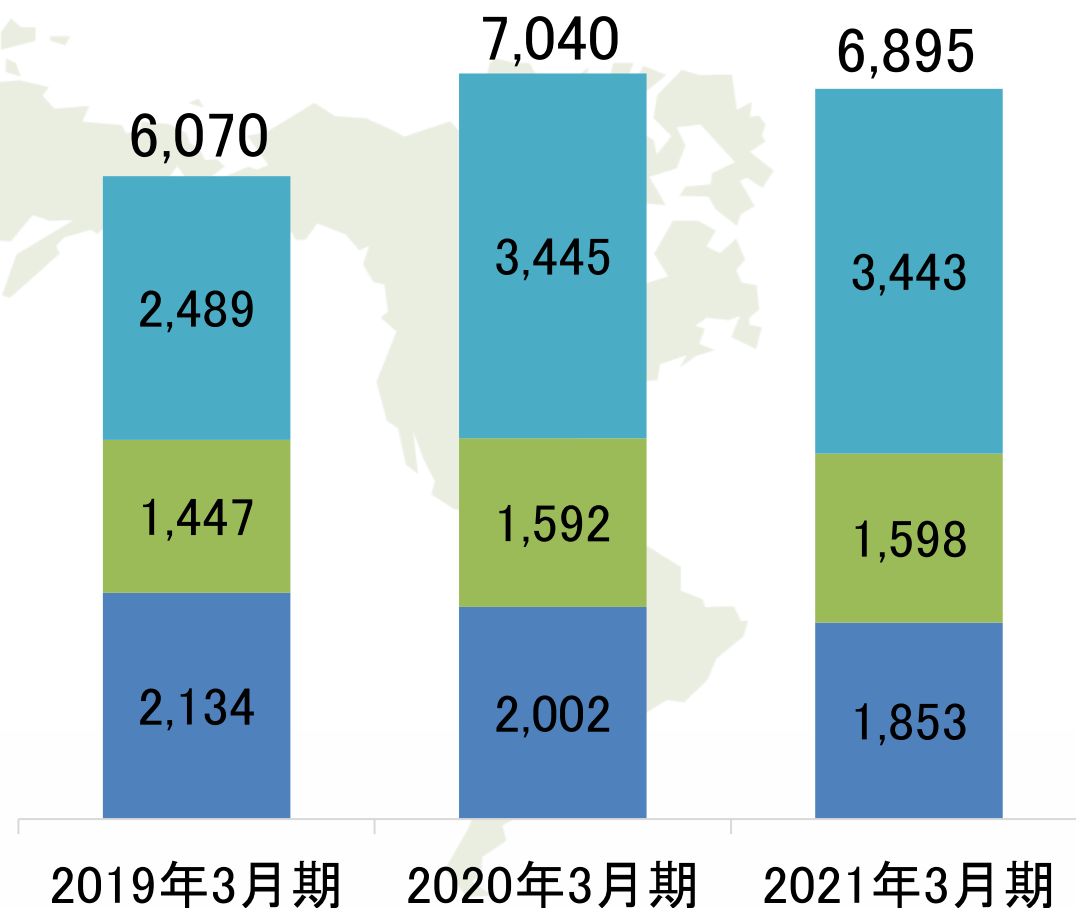
モバイル環境下の検診プログラムの増加

【尿検査用試薬】

シスメックス(株)向けの販売が増加※

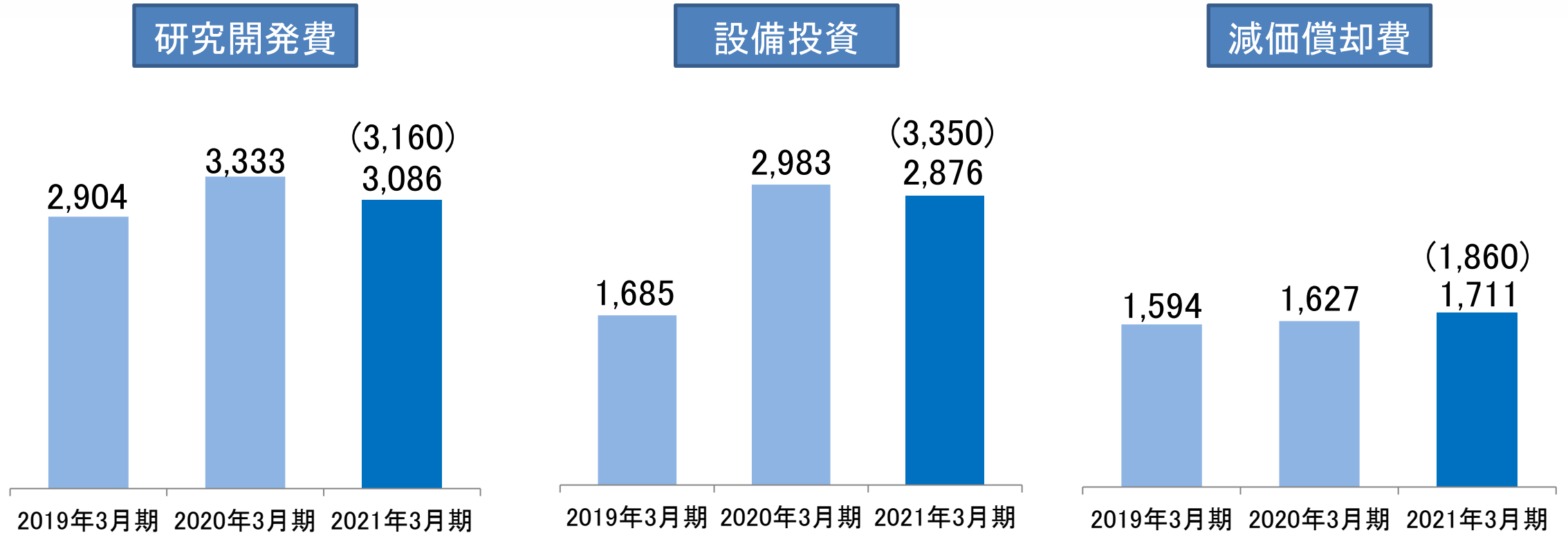
※海外向け尿検査用試薬の売上はアジア地域に含む

■ 欧州 ■ 北米 ■ アジア・オセアニア・その他



■ 研究開発費・設備投資の推移

括弧内数字：2020.10.26発表予想数値
(百万円)



- 研究開発費：主に便潜血検査および尿検査用装置の後継機の開発費
- 設備投資：主に基幹システム開発、新型コロナウイルス検査試薬生産設備

■ 連結貸借対照表(ハイライト)

(百万円)

	前期末	当期末	増減額
	2020年3月末	2021年3月末	
流動資産	28,903	29,983	1,079
うち現金及び預金	10,098	9,150	▲948
有形固定資産	12,041	12,768	727
無形固定資産	1,019	1,450	431
投資その他資産	8,357	11,481	3,123
資産合計	50,322	55,685	5,362

	前期末	当期末	増減額
	2020年3月末	2021年3月末	
流動負債	11,740	12,772	1,032
固定負債	1,278	1,239	▲38
純資産	37,303	41,672	4,368
負債・純資産合計	50,322	55,685	5,362
自己資本比率	73.5%	74.3%	

(主な増減理由)

➤ 有形固定資産の増加：新型コロナウイルス増産対応

■ キャッシュ・フロー

(百万円)

	2020年3月期	2021年3月期	主な内訳
営業活動によるキャッシュフロー	5,460	5,451	税金等調整前当期純利益 6,870 減価償却費 1,711 売上債権の増加 ▲1,275 法人税等の支払額 ▲1,172
投資活動によるキャッシュフロー	▲3,711	▲2,193	有形固定資産の取得による支出 ▲1,554 無形固定資産の取得による支出 ▲557
財務活動によるキャッシュフロー	▲1,220	▲1,275	配当金の支払 ▲1,180
現金及び現金同等物の増減額	532	1,987	
現金及び現金同等物の期首残高	4,448	4,981	
現金及び現金同等物の期末残高	4,981	6,968	

■ 配当金

株主還元方針

当社は、株主の皆様に対する利益還元を経営の最重要課題のひとつと位置づけたうえで、財務体質の強化と積極的な事業展開に必要な内部留保の充実を勘案し、安定した配当政策を実施することを基本方針としております。具体的には連結配当性向30%以上を目標としております。

1株あたり配当額: 41円 (中間15円・期末26円※)

連結配当総額: 15億14百万円

連結配当性向: 30.0%

※直近の期末配当予想から5円増配(2021年4月28日発表)



2022年3月期 重点施策・業績予想



■ 2022年3月期重点施策 — 中期経営計画(2019年度～2021年度)最終年度

▶ 遺伝子検査

- 新型コロナウイルス検出試薬の安定供給と販売促進
- LAMP法を用いた高処理能力・全自動装置の開発
- Simprovaシステムの国内展開および新規パネルの開発
- 次世代シーケンサーを用いたコンパニオン診断システムの開発

▶ スクリーニング検査等

- コロナ禍における大腸がんスクリーニング検査の普及強化および受診率向上への取り組み
- カルプロテクチン販売促進(国内・海外)
- 尿検査用試薬/装置の販売促進
- 結核及びマラリア検査等の普及・定着の促進

■ 2022年3月期重点施策 — 中期経営計画(2019年度～2021年度)最終年度

▶ 経営効率を高めるための基盤整備

- 基幹システムの統合: 新生産システム稼働 2021年8月予定
- 新研究棟着工 2021年6月予定

▶ サステナビリティ経営への取り組み強化



<https://www.eiken.co.jp/sustainability/>

■ 2022年3月期 連結業績予想・配当予想

(百万円)

2022年3月期 連結業績予想

	金額	構成比	対前期比
売上高	40,400	100.0%	104.5%
（うち海外向け売上高）	9,090	22.5%	131.8%
営業利益	6,370	15.8%	96.3%
経常利益	6,430	15.9%	94.4%
親会社株主に帰属する 当期純利益	4,910	12.2%	97.3%

(円)

配当予想	中間配当	期末配当	年間	配当性向
	20	21	41	30.8%

■ 2022年3月期 連結業績予想の考え方

【2022年3月期連結業績予想】

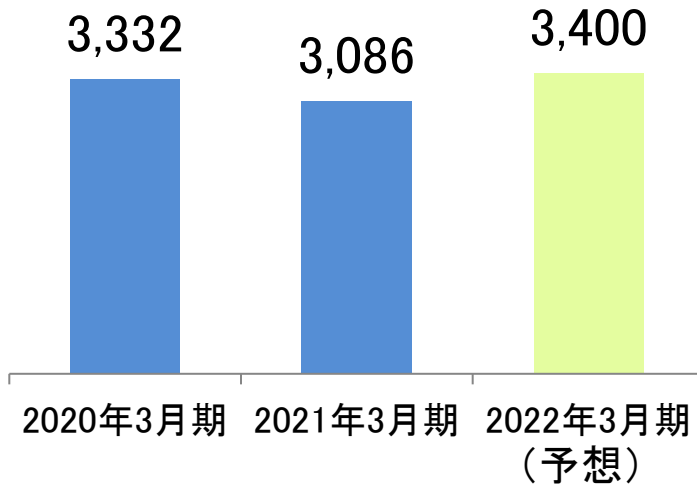
■ 売上高 40,400百万円(前期比104.5%) ■ 営業利益 6,370百万円(前期比96.3%)

- 国内: 検診市場はコロナ禍前と比較してほぼ同水準に回復、病院市場は5%程度減少と予想
- 海外: 大腸がんスクリーニング(FIT)は、コロナ禍前より普及拡大を予想
 - ー内視鏡検査での感染リスク回避として、FITによるトリアージの有用性認知拡大
 - ーウェブ検診、郵送検診の具体化
 - ー未受診による早期発見機会喪失の認知拡大
 - ー受診年齢引き下げ(米・英)による市場の拡大
- 新型コロナウイルス感染症の遺伝子検査の需要は継続を予想
 - ー国内: 検査の需要は一定数継続するが、遺伝子検査装置の設置は一巡
 - ー海外: 各国検査の需要への対応
- 利益面は、売上構成比率の変動による売上原価率の上昇や、ITを活用した業務プロセスの改革に伴う販管費の増加を見込む

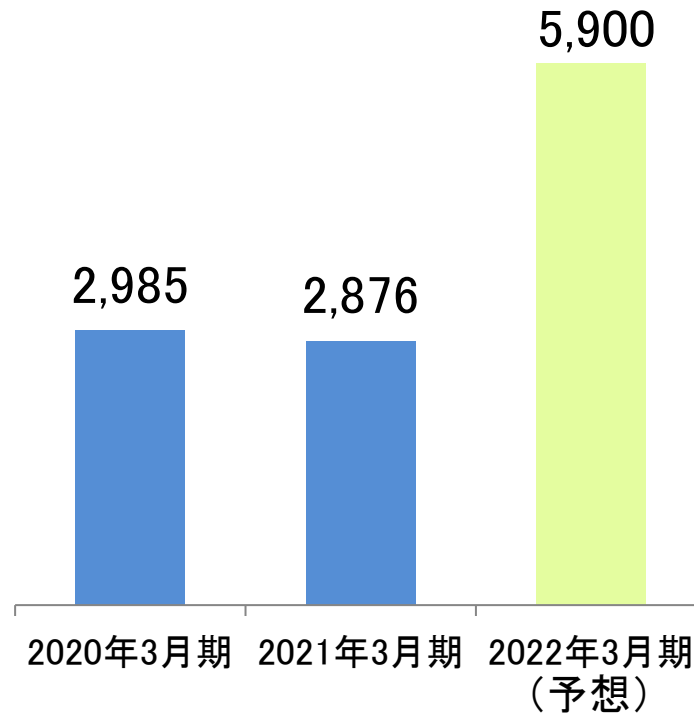
2022年3月期 連結業績予想 (研究開発費・設備投資の推移)

(百万円)

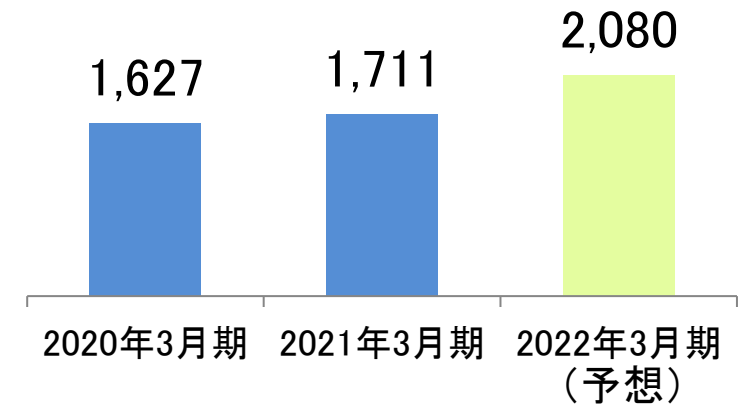
研究開発費



設備投資



減価償却費



- 研究開発費は主に継続している便潜血検査および尿検査用装置の後継機の開発費用
- 設備投資は新研究棟の着工を予定しており大幅増



■新研究棟建設着工（野木事業所）

➤ 成長戦略の具現化

— 消化器がんのグローバルブランド確立・三大感染症の診断システムを実現するための基盤技術の創造、付加価値の高い製品開発、品質・コストを追求した生産技術の確立

➤ 新たな情報と技術の集結によるブレイクスルー

— オープンイノベーション・分散している研究所の集約による創造性の向上



完成予想図

夢現の場 ～夢を実現し、無限でありたい～

2022年10月稼働予定

Saving Your Health

世界的な臨床検査薬企業として、人々の健康を守り続ける

本資料は、金融商品取引上のディスクロージャー資料ではなく、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。また、本資料に記載されている将来の予想等については、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、今後様々な要因によって予想と異なる場合があります。

本資料は、一切の投資勧誘またはそれに類する行為を目的として作成されたものではありません。

当社は、本資料の利用により生じたいかなる損害に対しても、一切責任を負いかねます。

